

524

524-630



1200501493962

昭和二

本邦産ケル木材ハ
コパルシ生産状況

Kodak Gray Scale



© Kodak, 2007 TM: Kodak

A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 13 14 15 B 17 18 19

Kodak Color Control Patches

Blue Cyan Green Yellow Red Magenta White 3/Color Black

© Kodak, 2007 TM: Kodak



昭和三年三月

内務省
林業課
紙
4

本邦ニ於ケル木材「パプル」生産状況

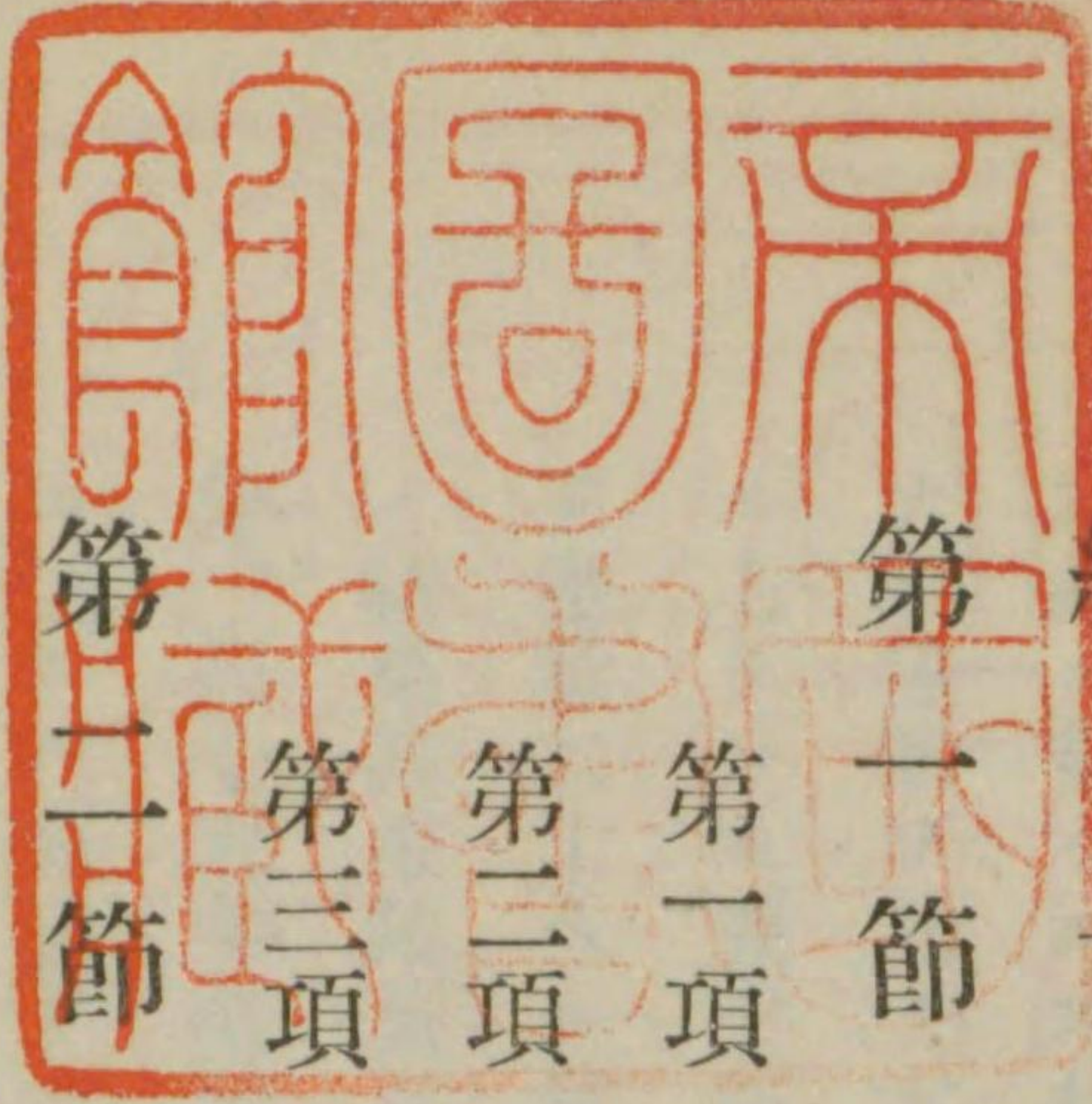
農林省山林局

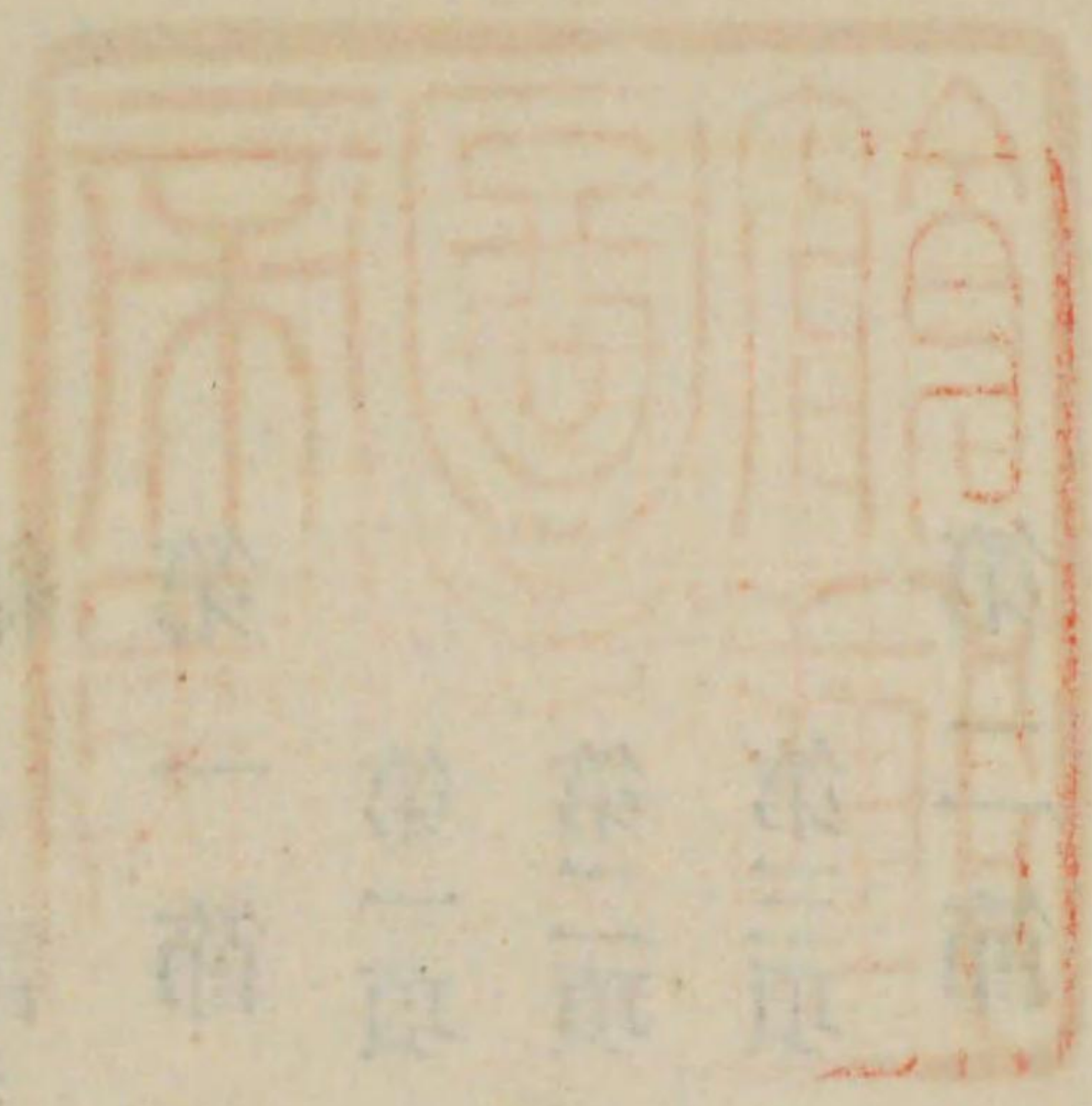
579-21
524-630

本邦ニ於ケル木材「パルプ」生産状況

目次

緒言	一頁
第一節 本邦ニ於ケル木材「パルプ」製造状況	二
第一項 木材「パルプ」製造會社工場ノ變遷	二
第二項 木材「パルプ」ノ産額	二
第三項 木材「パルプ」原料使用額	二
第二節 本邦ニ於ケル木材「パルプ」ノ輸出入状況	三
第一項 木材「パルプ」ノ輸入	三
第二項 木材「パルプ」ノ輸出	三
第三項 木材「パルプ」ノ市價	三





本邦ニ於ケル木材ハルプノ製造業ハ大正二年頃ヨリ漸次顯著ナル發達ヲ遂ケ大正九年迄ハ年々順調ナル徑路ヲ辿リ大正九年ニハ會社數十七、工場數三十一ヲ算シ木材「バルプ」ノ生産二十六萬八千餘噸ニ上リシモ翌十年ニハ財界ノ不況、工場ノ災厄、會社ノ併合等ノ影響ヲ受ケ同年ハ會社數十三、作業工場數二十八ニ減シ延テ其産額二十五萬噸トナリ生産稍々減少シタルモ爾來工場ノ新設既設工場擴張ノ結果其産額著シク増加シ昭和二年ニ於テハ五十三萬六千餘噸ノ多キニ達シ大正九年ニ比シ約九割九分、同十五年昭和元年ヨリ七分ノ増加トナレリ尙ホ工場擴張ノ計畫アリ昭和三年ニハ約六十二萬餘噸ニ達スル見込ナリ

本邦ニ於ケル木材バルプ生産況狀

(自昭和二年一月至昭和二年十二月)

緒言



本邦ニ於ケル木材「バルプ」ノ製造業ハ大正二年頃ヨリ漸次顯著ナル發達ヲ遂ケ大正九年迄ハ年々順調ナル徑路ヲ辿リ大正九年ニハ會社數十七、工場數三十一ヲ算シ木材「バルプ」ノ生産二十六萬八千餘噸ニ上リシモ翌十年ニハ財界ノ不況、工場ノ災厄、會社ノ併合等ノ影響ヲ受ケ同年ハ會社數十三、作業工場數二十八ニ減シ延テ其産額二十五萬噸トナリ生産稍々減少シタルモ爾來工場ノ新設既設工場擴張ノ結果其産額著シク増加シ昭和二年ニ於テハ五十三萬六千餘噸ノ多キニ達シ大正九年ニ比シ約九割九分、同十五年昭和元年ヨリ七分ノ増加トナレリ尙ホ工場擴張ノ計畫アリ昭和三年ニハ約六十二萬餘噸ニ達スル見込ナリ

而シテ原料木材ノ使用量ニ就テハ大正九年ノ三百九十三萬八千餘石ニ對シ同十年ニハ稍々減少シテ三百四十八萬餘石トナリシモ十一年以降逐年増加シ昭和二年中ハ大正十年ニ比シ十三割増ヲ示シ昭和三年ニハ昭和二年ニ比シ更ニ二割三分ノ増加ヲ來サントスル見込ナリ



第一節 本邦ニ於ケル木材「パルプ」製造狀況

第一項 木材「パルプ」製造會社工場ノ變遷

大正十年以降大正十五年ニ至ル六ケ年間ハ會社ノ組織ニ就キ種々變遷アリ殊ニ多數會社ノ併合ヲ見タリ即チ大正十年中王子製紙株式會社ハ樺太產業株式會社及朝鮮製紙會社ヲ合併シ超エテ大正十三年十月二月北海工業株式會社ヲ買收セリ又富士製紙株式會社ハ大正十一年日本化學紙料株式會社ヲ十二年富士「パルプ」株式會社、十四年大日本製紙株式會社中川工場ヲ併合セリ尙ホ樺太工業株式會社モ大正十五年三月中央製紙及九州製紙ノ二大會社ヲ併合セリ而シテ一度事業ヲ開始セルモ其後休業中ナリシ三浦物産株式會社八束村工場ハ爾來パルプ製造ノ開始ヲ見ズ鴨綠江製紙株式會社ノ南滿洲安東工場ハ大正十一年八月ヨリ休業中ノ處昭和二年一月ヨリ又富士製紙株式會社樺太知取工場ハ大正十五年九月ヨリ事業ヲ開始セリ既設工場中内地材ノ供給困難トナレル結果王子製紙株式會社ノ静岡縣氣田工場ハ大正十一年二月ニ同社静岡縣中部工場ハ大正十三年九月二十五日ニ工場ヲ閉鎖セリ而シテ大正九年中會社數十七工場數三十一ニ對シ同年ニハ會社數十三、作業工場二十八ヲ數ヘ昭和二年ニハ六會社、三十工場トナレリ前記作業工場三十ノ中碎木「パルプ」(ペグラウンドパルプ)ノミヲ製造スルモノ九工場亞硫酸「パルプ」(サルファイトパルプ)ノミヲ製造スルモノ八工場、兩者ヲ併セ製造スルモノ十三工場トス現時木材「パルプ」ノ製造ヲ專業トスルモノハ王子製紙株式會社ノ樺太泊工場同野田工場、富士製紙株式會社ノ北海道金山工場、同池田工場、樺太工業株式會社ノ泊居工場、同惠須取工場(泊居工場、惠須取工場ハ最近抄紙業ヲ開始セルモ大部分ハ販賣用「パルプ」ナルヲ以テ便宜「パルプ」專業工場ノ内ニ包含セシメタリ)東海紙料株式會社ノ静岡縣島田町工場、樺太木材紙料株式會社ノ伏木工場ノ五會社八工場ニシテ其内碎木「パルプ」ノミヲ製造スルモノ二工場亞硫酸「パルプ」ノミヲ製造スルモノ四工場兩者ヲ併セ行フモノ二工場トス

第二項 木材「パルプ」ノ産額

本邦ニ於ケル木材「パルプ」ノ産額ハ大正二年ニハ七萬六千餘噸ニシテ同九年迄ハ漸次増加シ同九年ハ二十六萬八千餘噸ニ上リシモ翌十年ニハ前年ノ約七%即チ一萬八千餘噸ヲ減シタリ然ルニ十一年ヨリ再ヒ年々増加シ昭和二年ニハ五十三萬六千餘噸ニ達シ前年ニ比シ七分大正九年ニ比スレハ九割九分ノ増加ヲ示セリ

而シテ大正九年迄ニ著シク生産ノ増加セル地方ハ樺太及北海道ナリシモ同十年中北海道及朝鮮ニ於テノミ産出稍々増加シテ北海道十二萬三千餘噸朝鮮一萬餘噸ヲ算セシモ樺太ニ於テハ五萬四千餘噸内地

ニ於テハ六萬一千餘噸ニ減少シタリ然ルニ翌十一年ニハ朝鮮ニ於テ若干ノ生産減少ヲ示セルモ樺太、北海道内地何レモ増加セリ十二年及十三年中朝鮮ニハ其生産ナカリシモ樺太、北海道及内地ハ何レモ生産ヲ増加シ更ニ翌十四年ニハ樺太十二萬二千餘噸北海道十七萬餘噸内地十一萬三千餘噸、朝鮮八千二百八十噸ニ達シ十五年ニハ樺太十六萬一千餘噸、北海道十九萬四千餘噸、内地十三萬二千餘噸、朝鮮一萬二千餘噸翌昭和二年中ハ樺太二十一萬一千餘噸、北海道十九萬三千餘噸、内地十三萬一千餘噸朝鮮五千餘噸トナレリ

本邦産木材「バルブ」大正三年以降昭和二年ニ至ル生産量ヲ示セハ次表ノ如シ

年次	生産量 (噸)	前年ニ比シ増(減)歩合 %	指數
大正三年	八九、八七四		一〇〇
大正四年	一一二、〇七五	二五	一二五
大正五年	一三四、九六八	二〇	一五〇
大正六年	一六九、〇三六	二五	一八八
大正七年	一九八、五九六	一七	二二一
大正八年	二三五、二二七	一八	二六二
大正九年	二六八、二六一	一四	二九八
大正十年	二五〇、〇二七	(六・八)	二七八

備考 括弧内ノ數字ハ負數ヲ示ス

年次	生産量 (噸)	前年ニ比シ増(減)歩合 %	指數
大正十一年	三〇一、四二五	二一	三三五
大正十二年	三三八、一〇六	一二	三七六
大正十三年	三五七、〇八四	五	三九八
大正十四年	四一四、七〇六	一六	四六一
大正十五年	五〇〇、三〇一	二〇	五五七
昭和元年	五三六、三九〇	七	五九七
昭和二年見込	六二五、八四九	一七	六九六

木材「バルブ」ノ將來ニ對スル生産見込ハ樺太ニ於テ二十八萬九千餘噸、北海道二十三萬五千餘噸、内地十七萬四千餘噸、朝鮮一千餘噸合計七十萬餘噸ニ達スヘク推定セラル

次ニ木材「バルブ」ノ種類別生産ニ就テ觀ルニ大正二年ニハ亞硫酸「バルブ」一萬五千七十七噸、碎木「バルブ」五萬四千四噸ニシテ其割合前者三割七分後者六割三分ナリシカ爾來亞硫酸「バルブ」ノ生産著シク増加シ同八年ヨリ遂ニ亞硫酸「バルブ」ハ碎木「バルブ」ノ産額ヲ凌駕スルニ至リ昭和二年ニハ亞硫酸「バルブ」二十八萬七千四百餘噸、碎木「バルブ」二十三萬九千九百餘噸「クラフトバルブ」八千九百餘噸ノ産出ヲ見タリ而シテ其割合亞硫酸「バルブ」五割三分、碎木「バルブ」四割五分「クラフトバルブ」約二分ニ當ル更ニ昭和二年中ニ於ケル木材「バルブ」ノ生産狀況ヲ述ヘンニ前年ニ比シ産出ノ増加セシ工

木材「バルブ」ノ地方及種類別生産額

工場所在地	木材「バルブ」種類		大正十三年	大正十四年	昭和三十五年	昭和二年	昭和三年	将来見込
	サルフアイトバルブ	グラウンドバルブ						
樺太	サルフアイトバルブ	108,127	110,974	154,576	190,508	28,035	35,255	
	グラウンドバルブ	—	1,110	—	1,957	26,823	40,955	
計		108,127	112,084	154,576	192,465	30,058	76,210	
北海道	サルフアイトバルブ	53,363	55,589	64,903	65,019	69,865	75,023	
	グラウンドバルブ	105,695	115,283	129,628	126,487	146,933	160,933	
計		159,058	170,872	194,531	191,506	216,802	235,956	
内地	サルフアイトバルブ	2,708	25,828	26,897	26,568	32,427	42,378	
	グラウンドバルブ	68,152	87,633	105,134	99,537	107,033	131,699	
計		89,860	113,461	132,031	126,105	139,460	174,077	
朝鮮	サルフアイトバルブ	—	8,280	12,307	5,396	1,740	1,740	
	サルフアイトバルブ	183,238	220,671	258,683	287,492	332,067	344,466	
計		183,238	228,951	270,990	293,888	333,807	346,206	
合計		173,846	201,925	234,762	239,981	280,768	333,577	

木材「バルブ」産額ノ地方別割合ヲ示セハ次ノ如シ

工場所在地	大正十四年		大正十五年		昭和二年		昭和三年見込		将来見込	
	木材「バルブ」産額	同百分率	木材「バルブ」産額	同百分率	木材「バルブ」産額	同百分率	木材「バルブ」産額	同百分率	木材「バルブ」産額	同百分率
樺太	133,094	29.5%	161,433	33.3%	221,333	39.4%	267,862	42.8%	289,254	41.3%
	120,871	4.2%	194,531	38.9%	191,506	36.2%	226,798	36.6%	235,996	33.7%
北海道	113,461	27.5%	130,311	26.4%	131,105	24.4%	139,460	23.3%	170,700	24.8%
	113,461	27.5%	113,461	22.8%	113,461	21.4%	113,461	20.3%	113,461	16.4%
内地	89,860	21.0%	113,461	22.8%	113,461	21.4%	113,461	20.3%	113,461	16.4%
	89,860	21.0%	89,860	17.8%	89,860	16.6%	89,860	16.1%	89,860	12.8%
朝鮮	8,280	2.0%	8,280	1.6%	8,280	1.5%	8,280	1.5%	8,280	1.2%
	8,280	2.0%	8,280	1.6%	8,280	1.5%	8,280	1.5%	8,280	1.2%
合計	457,776	100.0%	484,001	100.0%	560,535	100.0%	660,849	100.0%	700,997	100.0%
	457,776	100.0%	484,001	100.0%	560,535	100.0%	660,849	100.0%	700,997	100.0%

更ニ昭和二年及同三年見込木材「バルブ」産額ニ就キ種類別ノ割合ヲ示セハ左表ノ如シ

パ ル バ		場 工 業 専 プ ル バ			
北 海 道	樺 太	合 計	内 地		樺 太
			北 海 道	内 地	
サルフアイトバルブ	サルフアイトバルブ	サルフアイトバルブ	サルフアイトバルブ	サルフアイトバルブ	サルフアイトバルブ
クラフトバルブ	クラフトバルブ	クラフトバルブ	クラフトバルブ	クラフトバルブ	クラフトバルブ
計	計	計	計	計	計
108,390	37,873	118,864	1,930	17,779	78,433
121,175	46,137	149,408	1,300	18,766	104,433
121,175	45,470	177,653	9,031	19,549	94,655
138,750	49,441	194,727	15,900	20,444	99,000
王子製紙株式会社小牧工場	王子製紙株式会社江別工場	王子製紙株式会社知取工場	東海紙料株式会社島田工場	富士製紙株式会社池田工場	王子製紙株式会社大泊工場、野田工場、樺太工業株式会社泊居工場、同恵須取工場
同	同	同	同	同	同

種 別	在 工 地 場 方 所	木 材 「バ ル ブ」 種 類	昭 和 二 年		昭 和 三 年 見 込	
			額	百分率上	額	百分率上
合 計			536,390 (五、五)	100.0	635,849 (八、〇)	100.0
ク ラ フ ト バ ル ブ			8,918	1.7	13,014	2.0
グ ラ ウ ン ド バ ル ブ			8,918	1.7	13,014	2.0
サ ル フ ア イ ト バ ル ブ			527,472	100.0	622,835	100.0
小 計			527,472	100.0	622,835	100.0
朝 鮮 地 道			5,396	1.0	1,740	0.3
内 地			26,568	5.0	33,427	5.2
北 海 道			65,019	12.3	69,865	11.0
樺 太			190,508	36.3	218,035	34.3
滿 洲			40,555	7.6	60,000	9.4
小 計			287,491	54.6	331,067	51.9
北 海 道			11,957	2.2	26,813	4.2
樺 太			28,847	5.4	33,933	5.3
内 地			99,537	18.6	107,031	16.8
小 計			239,981	45.2	280,767	44.1
滿 洲			11,450	2.1	11,020	1.7
小 計			8,918	1.7	13,014	2.0
大 正 十 四 年			8,918	1.7	13,014	2.0
大 正 十 五 年			8,918	1.7	13,014	2.0
昭 和 元 年			8,918	1.7	13,014	2.0
昭 和 二 年			8,918	1.7	13,014	2.0
昭 和 三 年 見 込			8,918	1.7	13,014	2.0

而シテ大正九年迄ノ使用量ノ著シク増加セル地方ハ樺太及北海道ニシテ樺太百三十五萬餘石、北海道百六十萬七千餘石ナルニ對シ内地ニ於テハ僅ニ七十六萬九千餘石ヲ算スルニ過キス朝鮮ニ於テハ大正八年事業ヲ開始シ九年ニハ二十一萬餘石ヲ使用セリ超エテ大正十一年以降昭和二年迄ハ内地、北海道、樺太ニ於ケル木材ノ使用量ヲ年々増加セリ但シ昭和二年中ノ内地ハ前年ヨリ約二割六分ヲ減少シ百九萬四千三百三十石トナリ、北海道モ亦約二分ノ減少ヲ示シ二百四十一萬九千九百二十七石、獨リ樺太ハ二割強ヲ増加シ三百三十八萬三千二百六十二石ヲ算セリ而シテ曩キニ休業中ノ朝鮮工場ニ於テモ大正十四年下半期ヨリ事業ヲ開始シ大正十五年中ハ二十萬三千八百四十四石ニ上レルモ昭和二年ハ十五萬六千六百八十八石ニ減退セリ

製紙原料木材ニ就キ大正二年以降昭和二年ニ至ル累年ノ使用量ヲ比較スルニ次表ノ如シ

年次	使用量(石)	前年ニ比シ増(減)歩合(%)	指數
大正三年	一、一六五、六二〇	—	一〇〇
大正四年	一、四三一、五九一	二三	一二三
大正五年	一、七九三、八六九	二五	一五四
大正六年	二、三一九、二六七	二九	一九九
大正七年	二、七六八、〇六七	一九	二三七

年次	使用量(石)	前年ニ比シ増(減)歩合(%)	指數
大正八年	三、三八九、六三〇	二二	二九一
大正九年	三、九三八、三六〇	一六	三三八
大正十年	三、四八七、五五七	(一・四)	二九九
大正十一年	四、一八四、五八〇	二〇	三五九
大正十二年	四、六一〇、四〇五	一〇・二	三九六
大正十三年	四、八三二、五二一	四・八	四一五
大正十四年	五、六七二、九六〇	一七	四九〇
大正十五年	七、〇一〇、四二三	二四	六〇一
昭和二年	七、〇九三、二二〇	一	六〇九
昭和三年見込	八、七五八、六六〇	二三	七五一

原料木材ノ將來ニ於ケル使用見込額ハ曩ニ九百七十五萬五千餘石ト推定セラレシカ工場ノ伸縮擴張等ニヨリテ異動アルヲ免レサル所ナルモ樺太ニ於テハ六百七十三萬一千餘石、北海道二百四十九萬七千餘石内地ニ於テ百九十八萬六千餘石、朝鮮ニ於テ二十四萬石合計九百六十七萬四千餘石ニ達スヘク推定セラル次ニ原料木材ノ產地別ニ就キ之ヲ見ルニ大正二年ニハ内地材十二萬七千餘石、北海道材八十五萬二千餘石、樺太材三萬三千餘石ニ過ギサリシモ大正九年ニハ内地材十二萬一千餘石、北海道材百九十七萬四千餘石、樺太材百六十三萬一千餘石トナリ北海道材、樺太材ハ何レモ著シク増加シ更ニ朝

鮮材二十一萬餘石ヲ加ヘタリ大正十年ニハ北海道材、百九十九萬餘石、朝鮮材二十二萬八千餘石トナリシニ内地材ハ十萬六千餘石、樺太材ハ百十三萬六千餘石ニ減少シタルモ新ニ西伯利材二萬三千餘石ノ使用ヲ見タリ翌十一年ニハ西伯利材及樺太材著シク増加シ又北海道材モ亦稍々増加ヲ見タリシカ内地材及朝鮮材ハ何レモ其量ヲ減シタリ更ニ大正十二年同十三年同十四年同十五年ノ狀況ヲ見ルニ獨リ樺太材北海道材ハ年ヲ逐フテ増加シ西伯利材ハ十二年ニ増加ヲ示セルモ翌十三年ニハ前年ノ約半額ニ下リ更ニ大正十四年以降今日マテ之カ使用ヲ見ス之ニ反シ北海道材ハ十二年ニ稍々減少ヲ見タルノミニシテ翌十三年ニハ再ヒ増加シ更ニ大正十四年同十五年中ハ引續キ其量ヲ増シタルモ昭和二年中ハ減少シ同年中ノ使用額二百四十一萬三千餘石トナレリ而シテ内地材ハ近時逐年激減ノ一方ニ在リテ昭和二年中ハ全ク其使用ヲ見ス即チ大正二年ヨリ同八年迄ハ次第ニ増加セルモ同八年ノ二十萬七千餘石ヲ最高トシ翌九年ヨリ年々減少ヲ續ケ大正十五年ニハ僅ニ一萬九千五百五十石ヲ使用セルニ過キスシテ何レモ内地工場ニ供給セラレタルモノナリ

次ニ北海道材ハ大正二年僅ニ八十五萬二千餘石ノ使用ニ過キサリシカ爾來歲ト共ニ増加シ同十年ニハ百九十九萬二千餘石、同十一年ニハ二百十二萬五千餘石、同十二年ハ稍々減少シ二百十萬三千餘石トナリ同十三、十四、十五年ニハ年々増加ノ一方ニ在リシモ昭和二年中ハ稍々減少ヲ示セリ

樺太材ニ就テハ大正二年ニハ僅ニ三萬三千餘石ナリシモ爾來急激ニ増加シ同九年ニハ百六十三萬一千餘石トナリ同十年ハ一旦百十三萬六千餘石ニ減少セシモ翌十年以降年々激増シ大正十一年百七十萬三千餘石、同十二年二百三十一萬餘石、十三年二百五十一萬三千餘石、同十四年三百二十九萬五千餘石同十五年ハ四百三十四萬五千餘石昭和二年中ハ四百五十二萬三千餘石ニ増加セリ、昭和二年中ノ同材ニシテ内地工場ニ於テ使用セシモノハ百九萬四千餘石、朝鮮工場ニ於テ使用セシモノ三萬九千餘石、北海道工場ニ於テ使用セシモノ六千七百八十石ナルカ故ニ三百三十八萬三千餘石ハ樺太工場ニ於テ使用セルモノナリ

次ニ工場所在地別ニ原料木材ノ使用量ヲ見ルニ昭和二年中内地工場ニ於テ百九萬四千餘石、北海道工場二百四十一萬九千餘石、樺太工場三百三十八萬三千餘石ヲ算セリ

而シテ同年中内地工場ノ使用量ヲ產地別ニ就キ之ヲ見ルニ前年ト同シク樺太材最モ多ク其額百九萬四千餘石ナルモ前年ノ同材使用量ヨリ二割強ノ減少ヲ示セリ尙ホ北海道材モ減少シ前年六萬七千餘石ノ使用ニ對シ昭和二年中ハ皆無トナリ大正十一年迄ノ情勢トハ其趣ヲ一變セリ

西伯利材ニ就テハ大正十年ニハ富士製紙株式會社ニ於テ二萬三千餘石ノ使用ヲ見タルニ止マリシモ大正十二年ニハ富士製紙株式會社七萬一千餘石、北越製紙會社五千餘石計七萬六千餘石ヲ使用シタルノミ超エテ同十四、十五、昭和二年中ニ於テモ之カ使用ヲ見サリキ

會社、工場別原料木材ノ使用額

會社工場	木材ノ產地	大正十三年		大正十四年		大正十五年		昭和二年		昭和三年		將來見込	摘要
		大正十三年	大正十四年	大正十五年	昭和元年	昭和二年	見昭和三年						
王子製紙株式會社	北海道材	一、〇五三、五五二	一、一〇四、三六三	一、一六七、三九四	一、一五八、〇九七	一、三三〇、〇〇〇	一、一五〇、〇〇〇	一、一五〇、〇〇〇	層材五、五〇〇石ヲ合ム				
	樺太材	—	—	四三、三三〇	六七八〇	—	—	—	—				
	西伯利材	—	—	—	—	—	—	—	—				
	計	一、〇五三、五五二	一、一〇四、三六三	一、二一〇、五二四	一、一六四、八七七	一、三三〇、〇〇〇	一、一五〇、〇〇〇	一、一五〇、〇〇〇					
樺太大泊工場	樺太材	一八二、八四五	二二二、三八四	二二二、七三〇	二二八、七三三	三三〇、〇〇〇	三三〇、〇〇〇	三三〇、〇〇〇					
同 豐原工場	樺太材	三四〇、七九六	三九五、二六四	四一六、一一三	五七〇、三二七	六八〇、〇〇〇	六八〇、〇〇〇	六八〇、〇〇〇					
同 野田工場	樺太材	一八五、六六一	二五五、九三八	二五〇、一〇五	二四八、六二二	三三〇、〇〇〇	三三〇、〇〇〇	三三〇、〇〇〇					
朝鮮新義州工場	樺太材	—	七〇、九四〇	六八、二二〇	三九、五六〇	—	—	—					
	朝鮮材	—	八一、五七三	一五、六三四	一五六、一六八	—	—	—					
	計	—	一五二、五二二	一五、六三四	一五六、一六八	—	—	—					
富山縣伏木工場	樺太材	五九、二四七	七四、〇八〇	九〇、七五〇	一〇五、六六〇	一一〇、〇〇〇	一一〇、〇〇〇	一一〇、〇〇〇	屑材四五〇石ヲ合ム				
	内地材	三三、〇八〇	—	—	—	—	—	—					
	計	—	—	—	—	—	—	—					
合 計	樺太材	一、〇五三、五五二	一、一〇四、三六三	一、一六七、三九四	一、一五八、〇九七	一、三三〇、〇〇〇	一、一五〇、〇〇〇	一、一五〇、〇〇〇					
	内地材	—	—	—	—	—	—	—					
	計	—	—	—	—	—	—	—					
	西伯利材	—	—	—	—	—	—	—					
	朝鮮材	—	—	—	—	—	—	—					
	計	—	—	—	—	—	—	—					
	合 計	一、八五五、四八一	二、一九四、五四〇	二、三八三、〇五六	二、五八三、九二五	三、八七六、〇〇〇	三、二二〇、〇〇〇	三、二二〇、〇〇〇					

富士製紙株式會社

會社工場	木材ノ產地	大正十三年		大正十四年		大正十五年		昭和二年		昭和三年		將來見込	摘要
		大正十三年	大正十四年	大正十五年	昭和元年	昭和二年	見昭和三年						
静岡縣富士第一工場	北海道材	三〇、九七五	一七、一〇五	一五、五二六	—	—	—	—	—				
	樺太材	四六、四六三	七二、四五五	一一五、三二二	七八、九七七	八五、〇〇〇	一三〇、八〇〇	—	—				
	西伯利材	二七、一五九	—	—	—	—	—	—	—				
	計	一〇四、五九六	八八、五五〇	一三〇、八三七	七八、九七七	八五、〇〇〇	一三〇、八〇〇	—	—				
同 富士第二工場	北海道材	二六、〇九九	一三、四三二	—	—	—	—	—	—				
	樺太材	三九、一四九	七六、九四八	九二、一六九	七八、一四四	八〇、〇〇〇	一〇四、五〇〇	—	—				
	西伯利材	二五、〇七八	—	—	—	—	—	—	—				
	計	九〇、三六六	一九〇、三七九	一〇四、五七一	七八、一四四	八〇、〇〇〇	一〇四、五〇〇	—	—				
同 富士第三工場	北海道材	三九、一七四	二四、七七〇	二四、七七八	—	—	—	—	—				
	樺太材	五八、七六三	一四一、八九九	一八四、二六六	二二、三三五	三三三、〇〇〇	二四四、一〇〇	—	—				
	西伯利材	一八、七九九	—	—	—	—	—	—	—				
	計	一六、七三五	一六六、六六九	二〇八、九三四	二二、三三五	三三三、〇〇〇	二四四、一〇〇	—	—				
同 芝川工場	内地材	—	—	—	—	—	—	—	—				
	北海道材	四三、五四三	一七、二五六	一四、七〇九	—	—	—	—	—				
	樺太材	六三、八一四	九四、〇四六	一〇九、二三八	六七、三〇三	八五、〇〇〇	一三三、九〇〇	—	—				
	西伯利材	—	—	—	—	—	—	—	—				
	計	一〇六、三五七	一一一、三〇三	一二三、九四七	六七、三〇三	八五、〇〇〇	一三三、九〇〇	—	—				

木材ノ産地	工場地所	大正十四年		昭和十五年		昭和二年		昭和三年見込		将来見込	
		材積	百分率	材積	百分率	材積	百分率	材積	百分率	材積	百分率
内地材	内地	三五、七八六		一九、三六三							
北海道材	北海道	九七、五六三		六七、四〇五							
計	計	一三二、三四九		一四、四二七		二、四一三、一四七		二、六七七、〇〇〇		二、四九七、〇〇〇	
樺太材	樺太	二、一六三、三〇一		二、四四二、四三七		二、四一三、一四七		二、六七七、〇〇〇		二、四九七、〇〇〇	
朝鮮材	朝鮮	二、三五九、九〇三		二、五〇九、八三三		二、四一三、一四七		二、六七七、〇〇〇		二、四九七、〇〇〇	
計	計	一、〇六三、一四九		一、四三三、〇五三		一、〇九四、三〇三		一、五五七、七一〇		一、九八〇、三〇〇	
北海道材	北海道			四三、三三〇		六、七八〇				一〇〇、〇〇〇	
樺太材	樺太			二、八二二、一一二		三、三八三、二六三		四、〇三七、九〇〇		四、五五二、三二八	
朝鮮材	朝鮮			七〇、九四〇		三九、五六〇					
計	計			三、二九五、六九九		四、五三三、九〇五		五、八六五、六六〇		六、七三二、四二八	
西伯利材	西伯利										
計	計			八一、五七三		一五六、一六八		二六、〇〇〇		一五〇、〇〇〇	
滿洲材	滿洲										
計	計										
合 計	合 計			五、六七二、九六〇		七、〇九三、三三〇		八、七五八、六六〇		九、六七四、四二八	

製紙原料木材ノ地方別使用割合ヲ示セハ左表ノ如シ

工場所在地	大正十四年		昭和十五年		昭和二年		昭和三年見込		将来見込	
	材積	百分率	材積	百分率	材積	百分率	材積	百分率	材積	百分率
内地工場	一、一九五、四九七	二二・一%	一、五〇八、八三〇	二一・五%	一、〇九四、三〇三	一五・四%	一、五五七、七一〇	二七・八%	一、九八六、二〇〇	二二・五%
北海道工場	二、一六三、四一一	三八・一%	二、四八五、六四七	三五・四%	二、四一九、九二七	三五・一%	二、六七七、〇〇〇	三〇・六%	二、八九七、〇〇〇	二九・九%
樺太工場	二、一六三、六二〇	三八・一%	二、八二二、一一三	四〇・一%	三、三八三、二六三	四七・七%	四、三〇七、九五〇	四九・二%	四、五五一、三二八	四七・〇%
朝鮮工場	一五、五二三	二・七%	二〇、三八四	二・九%	一五、七三六	二・八%	二二、六〇〇	二・四%	二四、〇〇〇	二・六%
計	五、六七二、九六〇	一〇〇・〇%	七、〇一〇、四三三	一〇〇・〇%	七、〇九三、三三〇	一〇〇・〇%	八、七五八、六六〇	一〇〇・〇%	九、六七四、四二八	一〇〇・〇%

第二節 本邦ニ於ケル木材「パルプ」ノ輸出入状況

第一項 木材「パルプ」ノ輸入

一、木材「パルプ」輸入累年表

年次	數量		價額	
	斤	噸	總額	斤當
大正二年	七九,七七一・七六〇	四七,一三三	四,六〇〇,四七七	五,七九
大正三年	七九,一七五,〇三〇	四四,九九四	四,五七四,二二三	六,〇〇
大正四年	九〇,一七三,〇八〇	五三,二七四	五,九七四,八七三	六,六三
大正五年	九六,九六九,四三二	五七,二七七	九,〇一〇,七七九	九,三〇
大正六年	二四,〇八〇,四四一	一四,二三四	二,八〇〇,七七一	一,一六三
大正七年	四八,三三三,五五四	二八,五八八	六,八三五,五八九	一四,一四
大正八年	六八,一七五,九三八	四〇,二六九	一〇,六八七,二〇六	一五,六七
大正九年	七八,六三六,九一五	四六,四八八	一三,一九〇,三八三	一六,七七
大正十年	六五,六四五,六〇〇	三八,七七五	八,八二九,一三八	一三,四五
大正十一年	一一,五三〇,八〇〇	六五,八七三	一一,七五五,四三二	一〇,五四
大正十二年	(三〇,〇一〇,一〇〇)	(三五,四四七)	(六,三三三,八三九)	(一〇,五五)
大正十三年	一〇〇,八三三,八〇〇	五九,五五三	一〇,六三三,七七五	一〇,五四
大正十四年	一三,一〇六,三〇〇	七,七四四	一四,九三三,二〇六	一,一三八
大正十五年	一〇六,九一五,三三三	六三,一五一	一一,〇一七,八八一	一〇,三一
昭和二年	一三〇,七三三,二〇〇	七,三〇一	一一,九三〇,一五九	九,八八

(備考) 一、數量噸未滿四捨五入セルモノナリ

一、曩ニ山林局出版ノ木材「バルブ」調査書中大正元年以降輸出入斤數ノ長噸換算率ニ統一ヲ缺キシモ本表ノ數字ハ總テ一六九三斤ヲ一噸トシテ換算掲上セリ以下之ニ準ス
 一、大正十二年中ノ數量及價格ハ同年八月中ニ於ケル横濱港經由輸入ノ分(關東震火災ノ爲大藏省統計簿燒失ニ付其額不明)ヲ含マサルヲ以テ括弧ヲ附シテ區別セリ以下各表共括弧ノ分ハ之ニ準ス

二、木材「バルブ」國別輸入表

輸入國	大正十三年		大正十四年		(大正十五年)		昭和二年	
	數量	價額	數量	價額	數量	價額	數量	價額
瑞典	三,七五〇,五〇〇	二,三八一,九〇三	三,四六四,四〇〇	三,九八七,二二五	二,四七七,一七	一六,三二二,一〇〇	一,七六五,三九三	
諾威	八,五八九,七〇〇	九四,一〇一一	八,一六三,九〇〇	一,〇九四,七九五	一,一七〇,三九三	一一,九四一,三〇〇	一,八〇四,六六七	
北米合衆國	七,四六七,九〇〇	八五,五七八	二,一四四,八〇〇	二,五二二,三二八	七,九三,八〇三	五,四三三,六〇〇	五,九三,三七七	
加奈陀	五,〇六三,八〇〇	五,〇七二,五七一	五,九七八,二〇〇	五,七七〇,六〇五	四,九四五,一六	七,一五七,〇三〇	六,〇八〇,二六三	
其他	一一,四〇〇,九〇〇	一,三七三,七三三	一一,九二六,〇〇〇	一,五五九,二七三	一,六三一,九五四	一四,四五五,九〇〇	一,六六六,四六〇	
合計	一〇〇,八三三,〇〇〇	一〇,六三三,七五	一一,一〇六,三〇〇	一四,九三五,三〇六	一一,〇一七,八八一	一三〇,七三三,二〇〇	一一,九三〇,一五九	

大正二年以降過去十四年間ニ於ケル木材「バルブ」輸入ノ趨勢ヲ見ルニ數量ニ於テ大正五年迄ハ年々大體増加ノ傾向ニアリシモ同六年ニ入り急ニ激減シ翌七年ハ増加シテ前年ノ約倍額ニ上リ同八、九年ハ更ニ増加セルモ同十年ハ前年ヨリ約一割七分ヲ減セリ然ルニ大正十一年ニハ激増シ六萬五千餘噸ニ達シタルモ大正十二年ニ入り減少シ大正十年ノ分ト略ホ相近似スルニ至レリ然ルニ大正十三年、同十四

中輸出極メテ不振ニ陥リ漸ク三十餘噸ニ過キス大正十二、十三、兩年ニハ一層不況トナリ僅ニ三、四噸ヲ輸出シタルノミニシテ大正十四年ニハ僅ニ九百斤大正十五年中ハ輸出ヲ見サリシモ昭和二年中ニハ再ヒ輸出ヲ見ルニ至リ其額百七十噸ヲ算セリ

而シテ其ノ輸出價格ニ就テモ大正九年迄ハ一斤當約金十四錢ナリシカ同十年ニハ著シク下落シ約半額トナリ僅ニ金六錢五厘ニ下落セリ然ルニ同十一年ニハ稍持直シ九錢五厘強大正十二年ニハ一斤當金九錢八厘同十三年同シク九錢六厘ヲ示シ共輸出總額ハ大正六年ニ八十七萬五千餘圓、同七年ニ百五萬餘圓、同八年二十六萬四千餘圓トナリ同九年ハ急激ニ増加シテ在來ノ增勢ヲ一變シ實ニ百九十一萬餘圓ノ巨額ニ達セシモ翌十年急減シテ十二萬五千餘圓トナリ十一年ニハ更ニ減少シテ約五千圓トナリ十二年ニハ四百五十六圓十三年六百五十圓トナリ大正十四年七十八圓大正十五年中ハ皆無、昭和二年ハ二萬七千五百八十四圓ヲ算セリ

大正八年以降ノ輸出货量ヲ示セハ次ノ如シ

年次	數量		價		額	
	噸	斤	總	一	一	一
大正八年	一、八八八、一九九	斤	二六四、〇八〇	圓	一四・二	二四〇・七
大正九年	一三、七四三、二八七	斤	一、九二二、七四六	圓	一三・九	二三五・五六

年次	數量		價		額	
	噸	斤	總	一	一	一
大正十年	一、九一八、六〇〇	斤	一二五、五四九	圓	六・五四	一一〇・八三
大正十一年	五、二〇〇	斤	四、九六五	圓	九・五六	一六〇・二六
大正十二年	四、六〇〇	斤	四五六	圓	九・八三	一五〇・六七
大正十三年	六、八〇〇	斤	六五六	圓	九・六五	一六四・〇〇
大正十四年	九〇〇	斤	一五一	圓	九・六五	一六四・〇〇
大正十五年	九〇〇	斤	一五一	圓	九・六五	一六四・〇〇
昭和二年	二七、八一〇	斤	二七、五八四	圓	九・五六	二六二・三五

第三項 木材「パルプ」ノ市價

木材「パルプ」ノ内地市價一封度當ヲ示セハ次ノ如シ

木材「パルプ」ノ種類	昭和二年					
	一月	三月	五月	七月	九月	十一月
加奈陀品	七・九〇	七・九〇	八・〇〇	八・〇〇	八・〇〇	八・〇〇
瑞典品	八・五〇	八・五〇	八・六五	八・六五	八・七〇	八・七〇
獨逸品	八・三〇	八・三〇	八・四五	八・四五	八・五〇	八・五〇

グ ラ ウ ン ド バ ル プ	パ ソ ル プ ダ	プ ル	バ ト	イ ア
	晒 バ ル プ	プ ル	バ 晒	未
		漂 白 ノ キ カ メ モ ノ	漂 白 ノ キ ク モ ノ	
(内 地 品)	瑞 典 諾 威 品	瑞 典 諾 威 品	加 奈 陀 品	(内 地 品) 加 奈 陀 品
五 〇〇		七 ・ 三 〇	六 ・ 七 〇	六 ・ 八 〇
五 ・ 〇 〇		七 ・ 三 〇	六 ・ 六 五	六 ・ 七 五
五 ・ 〇 〇		七 ・ 三 〇	六 ・ 六 〇	六 ・ 六 五
五 ・ 〇 〇		七 ・ 四 〇	六 ・ 六 〇	六 ・ 八 〇
五 ・ 〇 〇		七 ・ 四 〇	六 ・ 五 〇	六 ・ 七 〇
五 ・ 〇 〇		七 ・ 四 〇	六 ・ 五 〇	六 ・ 七 〇

昭和三年三月二十八日印刷
 昭和三年三月三十一日發行

農 林 省 山 林 局

印刷者 小 張 才 三 郎
 東京市京橋區南鍛冶町九番地

印刷所 小 張 印 刷 所
 東京市京橋區南鍛冶町九番地

昭和三年三月三十一日發行
 昭和三年三月二十八日印刷

興林谷山林鼠

興林谷 山林鼠	興林谷 山林鼠	興林谷 山林鼠	興林谷 山林鼠	興林谷 山林鼠
興林谷 山林鼠	興林谷 山林鼠	興林谷 山林鼠	興林谷 山林鼠	興林谷 山林鼠
興林谷 山林鼠	興林谷 山林鼠	興林谷 山林鼠	興林谷 山林鼠	興林谷 山林鼠
興林谷 山林鼠	興林谷 山林鼠	興林谷 山林鼠	興林谷 山林鼠	興林谷 山林鼠
興林谷 山林鼠	興林谷 山林鼠	興林谷 山林鼠	興林谷 山林鼠	興林谷 山林鼠

524
630

NO.

"F-M"
PAMPHLET BINDERS

are carried in stock in the following sizes

Catalog No.	High	Wide	Thickness
851(菊倍)	30.cm.	x 24.cm.	x 1cm.
852(四六倍)	26. "	x 18.5 "	x 1 "
853(菊)	22.5 "	x 15. "	x 1 "
854(四六)	18.5 "	x 12.5 "	x 1 "
855(特)	24. "	x 15. "	x 1 "

other sizes are made to order

LIBRARY SUPPLIES OF ALL KINDS

F. MAMIYA & CO.

OSAKA - TOKYO - FUKUOKA

